

---

# 有機 化合物！～マレイン酸とフマル酸編～

石田杞憂

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

有機 化合物！マレイン酸とフマル酸編！

### 【Nコード】

N6856D

### 【作者名】

石田杞憂

### 【あらすじ】

「有機 化合物！」第三弾。これで貴方も有機化合物にハマる！？高校生必読の作品っ。

マレイン酸、フマル酸は周りから双子だと思われる。  
実際容姿も瓜二つの幾何異性体、ともに無色の結晶だ。  
しかし、実際は双子ではない。

「「ただいまー」」

二人そろって家に帰ってきた。

二階から「おかえり」と、か細い声が届いた。

そう、実は三つ子なのだ。

三人目の名前はメチレンマロン酸。一番下の弟だ。

ただ、メチレンマロン酸は体調が不安定で学校にはあまり行っていない。

そのことを気遣ってか、長男のフマル酸、次男マレイン酸はメチレンマロン酸の事を大事にしていた。

トランス型フマル酸の提案で三人は近所の「加熱公園」に来ていた。  
フマル酸は長男としての責任を感じているのか、

「たまにはマロンも外に出なきゃいかん」

と言って無理矢理弟を連れ出した。

メチレンマロン酸はあまり浮かない顔をしていたが、

まあ一人じゃないから大丈夫か、と思いつく少し気を楽にした。

そんな中、三人の内、一人にある異変が起きていた。

「あ…の…さ…」

マレイン酸だった。

「ここって……加熱公園だよな」

あたかも重病の病人のようにとぎれとぎれに言葉を発した。

「そうだけど？」

それがどうした、と言わんばかりのフマル酸。訝しげにマレイン酸を見ていた。

しかし、フマル酸はようやく、弟の身に何が起きているか分かった。

「おお前体中から水出てんぞー!」

「そう……なん……だ」

そうなのである。マレイン酸は160度で加熱すると分子内脱水をおこし、

無水マレイン酸へとなってしまふのであった。

「ちょっと、おい、こりややべえな」

結局三人は家に帰ることにした。

長男フマル酸はこれを反省し、フマル酸を加熱公園へは連れ出さなくなった。

しかし、兄弟以外はこの事実を知らない。

例えば、酢酸メチルもその一人だった。

酢酸グループ社長令嬢、酢酸メチルはエステルのな性格をした、少しわがまま、

ゴーイングマイウエーな女だ。

だからこの日もその性格をフルに発揮し、

マレイン酸の腕を強引に引っ張って公園まで連行した。

全てはある一言のため。

公園に着いた途端酢酸メチルはぱつと掴んでいた手を放した。

反動でマレイン酸は少しよろける。

「ああああなたに言いたいことが、その、あつて」

「……なんだ」

マレイン酸はどうも気分が優れぬ様子。

「その、今まであなたにいろいろ、迷惑とか、かけたかもしれない

けど、それは、実は」

「あ、そう。迷惑だつて知つてたんだ」

マレイン酸からは早く帰りたいオーラがひしひしと感じられた。

「あんたが好きだったから!!」

そして、酢酸メチルはその一言を放った。

彼女は告白の拍子につい目を閉じてしまう。

返事が……………怖かったのだ。

フラれてしまうのではないか、そんな恐怖に襲われ、しばらく目を開けずに顔を下げていた。

しかし、自分から逃げていてはいけない、と思い、ゆっくりと目を開ける。

そして目の前ににいるはずのマレイン酸を

「つていないっ!!」

いなかった。

先ほどまで目の前にいた、マレイン酸の姿がすっかりないのだった。どこにも いなかった。

「にげられた……………」

よつぽど自分の事を嫌っていたんだろう、とがっくり肩を落とし、目を伏せる。

すると 見知ったモノがあつた。

「ああんた何してんのよっ!!」

そこには全身から水を噴きだしているマレイン酸がいたのだ。

「お…まえ……………公園の名前……………見てみる……………」

ハッと酢酸メチルが振り返ると公園の入り口の、石造りの門にはこう書かれていた。

「加熱公園」

そして…………マレイン酸は既に無水マレイン酸と化していた。

マレイン酸とフマル酸編

終わり

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6856d/>

---

有機 化合物！～マレイン酸とフマル酸編～

2010年12月28日22時56分発行